

京のお宝～商店街～



浦井智司 山田麻子 小林真大

～もくじ～

はじめに	・ ・ ・ ・ ・	3
出町・柵形商店街	・ ・ ・ ・ ・	3
店舗へのインタビュー	・ ・ ・ ・ ・	5
お客さんへのインタビュー	・ ・ ・ ・ ・	8
店舗視点の柵形商店街	・ ・ ・ ・ ・	9
客視点の柵形商店街	・ ・ ・ ・ ・	9
私たちの考える商店街のお宝性	・ ・ ・ ・ ・	9
「京都」の商店街だからこそ	・ ・ ・ ・ ・	10
まとめ	・ ・ ・ ・ ・	10
感想	・ ・ ・ ・ ・	11

はじめに

私達は今回、京のお宝を調べるにあたって「商店街」をテーマとしました。その理由として、まず挙げられるのが、京都の古くからある伝統的なお店を受け継いでいるという点です。商店街には、古くからある豆腐屋さんや八百屋などのお店が、数多く立ち並んでいる印象があります。そういった昔の京都らしさを守り続けている場所の1つとして、商店街が挙げられるのではないかと考えました。古くからある伝統工芸品や京菓子、金物屋さんなど幅広いお店が集結している場所は中々ありません。京都の貴重なお店が立ち並ぶ商店街だからこそ、その店を支えている人や物にお宝性があるのではないかと考えました。

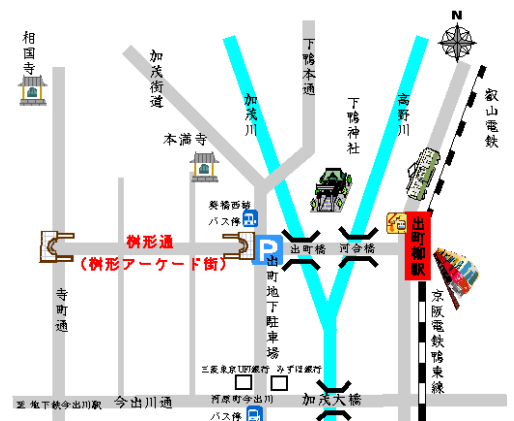
もう1つの理由として挙げられるのは、商店街は老若男女問わず、多くの人が接する場所であるという点です。京都のお宝性を見つける際には、京都に住んでいる人々との関わりが必要不可欠であると考えました。商店街ではお店の人とお客さんのやりとりやお店の人同士の繋がりなど、人と接する機会が非常に多いといえます。その関わりの中で、京都独自の人々の温かみや活気などがお宝性に結びつくのではと考えました。

次に出町・榊形商店街を対象とした理由について挙げたいと思います。私たちは今回、いくつかの商店街を見て回りました。その中でこの商店街は、他のどの商店街よりも「なんとなく雰囲気が良い」と感じました。大型スーパーや商業施設が次々とでき、「シャッター通り」と呼ばれる商店街も多いなか、今でも人通りが絶えない下町情緒溢れる雰囲気を持っている印象を受けました。そのようななんとなく感じる雰囲気の良さの背景には、何が隠されているのだろうと思い、この商店街を対象に調べてみることにしました。その雰囲気の良さの背景に、お宝性があるのではないかと考えたからです。榊形商店街は規模的には少し小さめなのですが、とても活気があり、人の温かさを感じることの出来る商店街です。手作りと思われる看板やモニュメントが立ち並び、お店の人とお客さんの声が常に飛び交っている賑やかな雰囲気を持っています。このような雰囲気を作り出している人々に焦点をあて、インタビューを行うことにしました。そこからこの商店街のお宝性について探ることが出来るのではと考えたからです。

出町・榊形商店街

〇場所

京都市上京区。出町柳駅より、高野川、加茂川を渡ってすぐ。出町地下駐車場の西、葵橋西詰バス停南へすぐ。河原町通から寺町通までの東西の榊形通が出町・榊形商店街（榊形アーケード街）と呼ばれています。周辺は住宅地で、西に同志社大学、南には御所があります。



○歴史

梶形商店街の西、加茂川に架かる出町橋付近は、かつて京都から福井の小浜へと通じる若狭街道の終点でした。中世、このあたりには若狭からたくさんの海産物や人が集まり、市場が設けられ、おいに賑わいました。若狭からは多くの鯖が運び込まれたことから、街道は「鯖街道」と呼ばれるようになりました。

明治・大正期には市電が通り、さらには叡山電車も開通し交通の要所としてますます人を集めるようになりました。

梶形商店街自体は大正期に商店が始め、戦後現在のような形になりました。



現在ではアーケードが架かり、食料品、衣料品、雑貨を中心に 44 店舗が営業をしています。地域との交流に力を入れておられ、多くの団体と連携を取りながら、商店街を盛り上げるためにさまざまな取り組みがなされています。

○エコ商店街

エコ商店街とは、京都市（京都市ごみ減量推進会議）と連携して行われている、ごみの減量を目標に掲げ、レジ袋の削減や、トレーの再利用などを行おうと、鮮魚店のさが喜のご主人の井上さんの呼びかけによって 2007 年から始められたものです。現在では梶形商店街の多くの

店舗がごみを減らすべく何らか

の取り組みを行っています。またこの取り組みは、京都精華大学とも協力して行われており、アーケード内には、京都精華大学の学生さんがデザインされた「エコ商店街旗」が並んでいました。



○七夕夜店

毎年一度 7 月上旬に七夕夜店というお祭りが行われます。各店舗が 1 つずつ屋台を出し、多くのお客さんを集めます。このお祭りにもいろいろな団体関係しており、同志社大学の学生が屋台を出したり、近隣の小学校、幼稚園の児童、園児が笹飾りを行ったりしています。また、立命館大学産業社会学部の乾ゼミの学生もお手伝いをしているとのこと。



○榊形事業協同組合

榊形事業協同組合とは榊形商店街の共同施設の維持管理のために設立された団体です。またこの組合を通じて各店舗との横の連携が取られ、春、七夕、秋、年末の 4 回行われる売り出しや、エコ商店街などの取り組みがなされています。また、年に一度、他の商店街の視察も行っておられます。最近では、尼崎の商店街や、東京は蒲田の商店街も視察したということです。

店舗へのインタビュー

私たちは出町・榊形商店街がどうして賑わいが絶えないのか？
その秘密を探るべく以下の質問を考え、出町・榊形商店街に足を運びました。

☆店舗への質問内容

- ①エコ商店街の取り組みは？
- ②創業何年目ですか？なぜ出町商店街に出店したのか？
- ③お客さんに来てもらうために工夫していることは？
- ④お店の自慢
- ⑤近隣に 100 円均一スーパーなどができてその影響などはどうですか？
- ⑥過去に比べてどうですか？活気がありますか？
- ⑦お店同士のコミュニケーションなどはとられていますか？

薬局『薬友堂 出町店』さん

①エコバッグで買い物をするとエコスタンプを押しています。エコスタンプは集めると景品と交換できます。

②18年目で、私は幼い頃からこの商店街に通っていた客でした。

⑤薬は専門店でき販売ができないので、特に変化はありませんでした。しかし、近年はやっぱり商店街全体でお客さんは減りました。

文具店『みやぎ』さん（商店街の理事会の方で、非常に熱意あふれる方でした）

①刃物を持ってくると磨ぎます。エコスタンプは当然です。

⑤当然売り上げがガタ落ちしました。向こうは大量に商品を仕入れることができるので、安く売ることができます。しかし、こちらはそうはいきません。品揃え良く、清潔感を出し、店内をキレイにすることで対抗しています。あとは、100円均一やスーパーに無い店員と会話しながらできる買い物をアピールしながら商売をしています。

※その他

——この商店街は店員に熱意があつてとても良い商店街です。他の商店街に偵察に行ったり、自分の店をいかに魅力的な店にするかと努力をしています。昔は溢れかえる程の人が居ましたが、現在はお客さんの年齢層も高くなり、人も減りました。私たちはこれからコミュニケーションが必要となる学生にもっと商店街を利用して欲しいと考えています。

『井上呉服店』さん

①レジ袋いらない方にはスタンプを押して、何かその時々でサービスをしています。

②もう64年目になります。

⑤商品が商品ですので、特に影響はありませんでした

※将来的に柵形商店街はどうなって欲しいですか？

——やっぱり若者にもっと利用してもらいたいですね。

豆腐・大豆製品『いづもや食品』さん

①容器を持ってきてくれたお客さんには10円引きのサービスをします。レジ袋のリサイクルを行っています。おからを冷凍させて保冷剤の代わりに使っています。

③良い品を安く売ったり、早朝から準備して早めに開店するようにしています。また広告や金券を手作りし、商店街を活性化させています。

⑥不景気なので商品を安売りしないといけなくなってしまいます。また、若いお客さんが他の店にとられてしまいます。

⑦年に1回、女性が集まるお食事会を開いたり、ふれあい広場での交流を行ったりしています。商店街のモニュメント「ワカサバちゃん」を全員で手作りしたり、七夕祭り

などイベントごとに会議もします。

線香・ローソク・あられ『高橋盛香堂』さん

- ①お客さんに手提げ袋や包装紙、帯を持ってきてもらうよう勧めています。
- ⑤商店街にお客さんが増え、活気づきました。
- ⑥20年ほど前から活気がなくなり、あられやお香を買いにくるお客さんが減りました。
今では、お年寄りのお客さんが多いです。
- ⑦ちらしや金券をみんなで手作りするなど、目に見えないところでの工夫。イベントの前の飾り付けはみんなで準備。

惣菜『てんぐ』さん

- ①野菜はいらない部分まできちんと使います。エコバックを持ってきたお客さんには金券のサービス。
- ⑤商店街に新しいお客さんが増えました。新しいお客さんが自分の店にも流れて、お店が繁盛しました。

『京つけものなかにし』さん

- ①レジ袋不要のお客さんにはポイントカードにハンコを押します。ポイントがたまれば抽選を行えます。
- ②創業は大正時代。商店街が今の形になってきたのは50年くらい前。(お話をしてくださった店員さん若いころからずっとここで働いていらっしゃる。)
- ⑥昔は歩けないほどの人ばかりでした。「黒山の人だかり」昔は大原からの買い物客も多かったです。昔からのお客さんは今でも遠くから買いに来られます。
近隣に学生寮が多くあったことから学生の人通りも多かったです。寮に商品を納めることもよくありました。
- ⑦年1回、組合で他の商店街を視察。東京や尼崎など。
売出しなどの行事を行います。春・七夕・秋・年末の4回

※その他

——何十年ぶりに来られるお客さんも「ああよかった」「でもやっぱり出町がいい」と言ってくれます。

『子ども服&婦人服 Blue Ink』さん

- ①レジ袋不要のお客さんには2円引きのサービス。
- ②4年前に出店。家賃が、滋賀の一等地より安いのに滋賀の一等地より人通りが多い(店主は滋賀県守山市在住)。出町は「都会の三等地」
同じ柵形商店街の中でも河原町通側のほうが寺町通側よりも1.5~2倍ほど家賃が高い。
- ③スーパーとは同じものは置きません。ビブレなどに利益率では勝てないです。
- ④全体の宴会にたまに行く程度。ここに住んでいるわけではないから、あまり付き合いすぎるのもうっとおしい。お祝いなどで出費もかさむし、こっちは住んでいないのでもらうこともないですしね。

お客さんへのインタビュー

また、出町・柵形商店街の魅力の秘密を知るには、日ごろからここで買い物されているお客さんからの視点からも探ってみないと！と思い、お客さんのお話も聴くことにしました。

なぜこの商店街で買い物するのですか？

- ・親が昔から通っている商店街なので、とても馴染みがあります。
- ・家が近くだから。
- ・職場に近くて、有名なかばやき屋さんがあるからです。
- ・毎日通っているうちに、ここの味がやみつきになってしまいました。

スーパーの向かい側にある八百屋さんの魅力とは？

- ・果物がきれいに保ってあり、質の良い食品が多いところですね。
- ・店員さんとコミュニケーションしながら買う楽しさがあります。
- ・どの野菜や果物が旬なのか、細かい情報が分かります。

柵形商店街で買い物をされていた元同志社大学国際科の寮の職員さん(栄養士)のお話

「商店街の良さは対面販売。商品の情報も詳しく知ることができ、安心して買い物ができる。柵形商店街のなかのスーパーには行かない。やっぱり対面販売がいい。豆腐屋さんとか古くからのお付き合いで、ここの豆腐やおあげで寮の学生に料理を作ってあげていた。学生に料理を教えたり、豆腐屋さんのお話も教えたりしていた。」

現在は伏見区在住ですがよく買い物に来られる。

昭和40年代ごろはもっと人通りが多かったとのこと。

店舗視点の榊形商店街

榊形商店街は店舗同士の繋がりがあり、お客さんとのコミュニケーションも取れて楽しく商売ができています。他の商店街では商店街装飾などは理事だけでしますが、榊形商店街は全員参加です。全店舗でよりよい商店街を作ろうと努力しておられます。

客視点の榊形商店街

大半は子どものころ親と一緒に通っていたというお客さんが多いですが、バスに乗って遠くから来るお客さんも多く、広い範囲から集まっています。店員と話をしながら買い物ができるので、自分の力量で商品が安くなったりと、スーパーやコンビニでは無いコミュニケーションを楽しむことができます。また、売っている人が知り合いだと安心感があります。

私たちの考える商店街のお宝性

ア. コミュニケーション

現在日本人、特に若い世代に足りていないと言われるコミュニケーション力。コンビニやスーパーの普及により誰かと会話をして買い物をすることが無くなった現在には店員と楽しく会話しながら買い物をするといったことが人とのコミュニケーション力を育てる大事な要素ではないでしょうか。

イ. 専門性

商店街は専門店の集合体であり、各店舗ある種類に定めた商品を扱っているため専門知識がある。似た商品が多い中、どっちがどのように優れているのかをすぐに確認することができ、無駄な買い物を防ぐことができます。野菜一つ買うにしても、どのように調理すると美味しいのか等の知識も得ることができます。

ウ. 安心感

コミュニケーション・専門性があるからこそありますが、買うモノに安心感が持てます。売っている人を知っているとその商品に安心感が持て、さらに専門知識を持った人が勧めるので、安全で失敗のない商品を得ることができます。八百屋で買い物しているお客さんに話を聞いたところ、スーパーよりもこここの八百屋の果物の方が、きれいに保たれていると仰っていました。

「京都」の商店街だからこそ

・雰囲気

京都には独自の雰囲気があります。それは関西人特有のものでもあり、店員と客という壁を崩した接客にそれは現れます。積極的な商売から生まれるその雰囲気は他にはなく、学生の町である京都市内には無くてはならないものです。京都から出てきて独り暮らしをする学生にとって、温かく話しかけてくれる京都の商店街の店舗はどこか自分の田舎を思い出し、暖かい気持ちにさせてくれるのではないのでしょうか。

・歴史ある京都

かつて都であった京都は歴史ある老舗が多いです。商店街も例外ではなく、商店街のある道ひとつひとつに歴史が刻まれています。そんな歴史を商店街は守り、大事にしている。その道にある歴史に由来する祭りやイベントを企画していたり、その歴史が勉強できる仕組みがあったりなどです。京都の歴史を守り続ける商店街。そこにも商店街の宝が潜んでいると考えられます。

まとめ

榊形商店街に対象を絞った理由はそもそも「行ってみて何となく雰囲気が良い」でした。その雰囲気の良さはどこから来ているのかと調べていると、今回のお宝性に結びつきました。コンビニ・スーパーばかりで、あまり商店街を利用する機会がない自分たちにとって、コミュニケーションができる買い物は新鮮で楽しいものでした。商店街にお宝性はあることは感じ取れましたが、商店街側の努力があってこそのお宝性で特に今回調査した出町・榊形商店街はその努力が感じられました。

商店街のお宝性は現在の若者が失いかけている「人との付き合い」、どんな商品が安心できるか分からない世の中での「安心感のある商品」が挙げられると考えました。そして歴史を大切にしている商店街。そのどれもが商店街特有のものであり、これらは今後ずっと大切とされるものです。商店街のお宝性は失われてはいけないものだと考えます。

感想

浦井智司

はじめ「京都のお宝性」と聞いた時はこれからの国際社会のために外国人に関心を持ってもらえる物と考えました。それは観光であったり、歴史ある建物でした。しかし、外国にあまり無く、京都らしく、歴史を大事にしているものと考えているとふと商店街が思いつきました。それが今回商店街というものを対象にしようと考えた始まりです。実際に訪れてみると外国人を対象にする以前に、現代の学生が失ってきている年上の方とのコミュニケーションや、大切な何かを与えてくれるそんな何かに着かされるようになってきました。コミュニケーションや、安全性、買い物の楽しさなど具体的なお宝性を挙げてきたが、実際に行ってみて気づく「また来たいと思う何か」という抽象的なものも商店街の持つ独自のお宝性に繋がるのではないかと感じました。

山田麻子

今回、商店街をテーマに京のお宝を調べてみて様々な発見がありました。まず直接商店街に出向くことにより、商店街独自の活気を肌で感じる事が出来ました。この店にはこんな店員さんがいて、こういう商品を売っているのだなと目で確認していくのが楽しかったです。私は中々普段こうやって注意深く商店街を見て回る機会がありません。なのでとても新鮮な気持ちで、普段気づきにくいことに気付けた気がします。例えば、お店同士の仲の良さです。それぞれの店が売ることだけ考えて働いているのではなく、たまには隣のお店の人と談笑したりする姿が見られました。お客さんと話している店員さんも多く見られ、手を休めて世間話に没頭している人も見られました。私たちがインタビューを行った店員さんも、笑顔で沢山のことを話してくれて温かかったです。この現地取材で、人と接する温かみに触れられた気がします。

小林真大

今回私たちは出町・梶形商店街を調査するという事で、実際にお話を聞こうということでお邪魔させていただきました。ここの商店街のすごいところはみんな自分の店、商店街に誇りを持っておられるなということでした。ひとつのことを聞けば何倍もの返答が帰ってくる、どのお店の方にお話を聞いてもそうでした。最初訪問したときに、このような取材はなかなか不慣れなのでこちらから訪ねていくことを躊躇していると店員さんのほうから、なにか調べてはるの？と声を掛けてくださるという場面もありました。それぐらい梶形商店街のみなさんは積極的な方ばかりでした。この積極的な心が梶形商店街を盛り上げる原動力なのかなと思います。また、数えきれないぐらいのさまざまな団体とも連携しておられますが、このような協力関係も梶形商店街の積極性によって築かれてきたのではないのでしょうか。

そしてなんといっても榊形商店街の自慢は榊形事業協同組合を中心としたお店同士のつながりといえるでしょう。ひとつのお店に取材に行くと、昔のことに詳しいのはこの店の人で、エコ商店街についてきくんやったらあそこの店に行ったらいい！などと他店の情報がいきいきと手に入ります。エコ商店街や七夕の取り組みを始め、アーケード内の凝った装飾や、他の商店街の視察など、日ごろから関係を深いものにしていないとできないことだと思います。

榊形商店街ではお店同士の交流が活発で何か特別に感じますが、このようなお店同士のつながりというのは、かつてはどこの商店街でもあったのかなとも思います。それが、大型店の進出や後継不足で店が減り徐々に薄れていってしまったのでしょうか。もう一度横のつながりというものを意識すればお客さんは帰ってくるのではないだろうか、とそんな可能性を感じさせてくれたのが、榊形商店街でした。

参考資料

榊形アーケード街 <http://masugata.demachi.jp/>

図の引用

榊形の広域地図 <http://masugata.demachi.jp/page024.html>